「神のかたち」で生きる霊性入門

連載 2

「神のかたち」との距離感―課題はどこに

池田モース優美

いけだ・モース・ゆみ：二〇一九年、米バイオラ大学タルボット神学校パストラルケア&カウンセリング修士課程修了。セカンドレベルミニストリー、ソウルケア部門ディレクター。クリスチャンの霊性、精神的支援のほか、霊的虐待、カルト化教会被害者の回復支援を行っている。

前回、「神のかたち」についてお話しました。今日はこれを読んでいるみなさんの生活の、どのようなところに「神のかたち」が求められているか、一緒に考えてみましょう。

実体的解釈――人間性の問題

「神のかたち」とは何か。それを人間性の問題として捉えることを、「実体的解釈」と言います。この解釈において考えるべきは、**私たちがイエス・キリストの人格に似ているか**、ということです。周囲の人があなたの生き方や考え方に触れることでイエス・キリストを感じるかどうか、次の質問を考えてみてください。

- **繰り返し起きている人間関係のトラブルはありませんか。何が問題でしょうか。**
- **あなたの生活に漏れ出している感情はありませんか。何が起きていますか。**（例：怒り、悲しみ、恐れ、苛立ち、嫌悪、恥…）
- **あなたの問題は、どのような未来を迎えると思いますか。**
- **あなたの人間性のどの部分がキリストに似せられていく必要がありますか。あなたはどうなりたいですか。**
- **聖霊によってあなたが変えられたら、どのような祝福があなたの人生と周囲に届けられると思いますか。**

機能的解釈――関係性の問題

次に、「神のかたち」を関係性についての問題として捉えることを「機能的解釈」と言います。これは非常に重要ですが、気がつきにくい分野です。**「神のかたち」が関係性の中にかたちづくられる**というのは、私たちと関わりのある人、モノ、社会との関係性を、神様が「いいね」と言われるかどうかです。この「関係」は、友人や家族、配偶者、子ども、親族といった人間関係。仕事、お金、食べ物、インターネット、ゲーム、SNSなどの依存性の高いもの。また地域、学校、教会との関わりも含む、全ての関係性を指します。

実は、対象が「良い」「当然である」とされているものほど、健全な関係かどうかをよく考える必要があります。例えば仕事、子ども、配偶者、家族、教会、宗教。これらに

時間、精神力、犠牲を投じることを疑問視することはあまりないでしょう。もちろん、それらが重要なのに変わりはありません。問題は、その関わり方が**「神のかたち」の全体性**を反映しているかどうかなのです。

「神のかたち」は本来、どれか一つの関係性に偏らない、バランスの取れたものです。仮に仕事によって、家族や社会、神や教会との関係、自分自身の心や健康が損なわれている場合、仕事は私たちの生活の中にある「神のかたち」の全体性を損なっているということであり、仕事がほかの関係性を犠牲にしているのです。この「仕事」を、あなたが現在、バランスの問題を抱えている関係に置き換えてみてください。例えば「教会」「神」「宗教」はどうでしょうか。これらは、不健全に用いられた場合、考える力を麻痺させ、人をコントロールしてしまいます。かねてより社会問題になっているカルトの問題は、神が創造した人としてのあり方、全体性を無視した結果、生じているものです。

私たちの働き場は宗教的な現場に限りません。家族、友人、キリストを知らない人たちとの関係、また自分自身の精神力、時間、身体も、天の主人から預かっている資産なのです。預けられた資産の全体が元気で健康であるようお世話をすることが、私たち「管理人」としての役目です。どれか一つの関係性のために他が著しく影響を受ける場合、神の資産は目減りしています。私たちは神の愛を運ぶ船であり、神への愛は、周囲の人、自分自身にも、適切に配分される必要があるのです。

「神のかたち」の形成が必要な関係性について、次の質問を考えてみてください。

- **あなたが関係性を見直す必要がある対象には、どのようなものがありますか。**
- **あなたのどのような考えが、見直しをためらう原因になっていますか。その考えについて神はどのように言われるでしょう。**
- **あなたの関係性をどのように改善させれば、神様は「いいね」と言われるでしょう。**
- **あなたの行動の動機は何ですか。それが愛以外の場合、動機を愛とするためにどのように考え方、関わり方を変えることができますか。**

関係的解釈――神との関係

最後に、「神のかたち」とは、**神との関係性の中に生きること**、と捉えることを「関係的解釈」と言います。「神があなたとのつながりを何よりも大切に思っている」と想像したことがありますか。イエス・キリストの大きな犠牲は、私たちを神との関係に招き入れるためでした。それほど、私たちの存在は神にとって慕わしいものです。神は私たちの声を聞き、笑顔を見てほっとし、私たちが涙を流す時は、それを拭うために私たちのそばにいたいと思っています。

神とのつながりは、前述の実体的解釈、機能的解釈の故郷のようなものです。私たちの霊的成長には厳しさだけでなく、神との慕わしさを感じる温もりが必要です。主イエス・キリストとのつながりを深めることにより、神のいのちが私たちの人格、関係性の中に流れ出ていくのです。

- **神を近く感じますか、遠く感じますか。**
- **遠く感じる方、どのような理由があるでしょう。**
- **神の子どもとして、あなたは何歳だと思いますか。**
- **神とより親しくなるため、神との関係性において成長するため、どのように取り組むべきでしょうか。**

◇

今回は、自分自身の課題がどこにあるのか一緒に考えてきました。次回は、自分自身が行きたいと思う方向について、心の声を理解することに取り組んでみましょう。